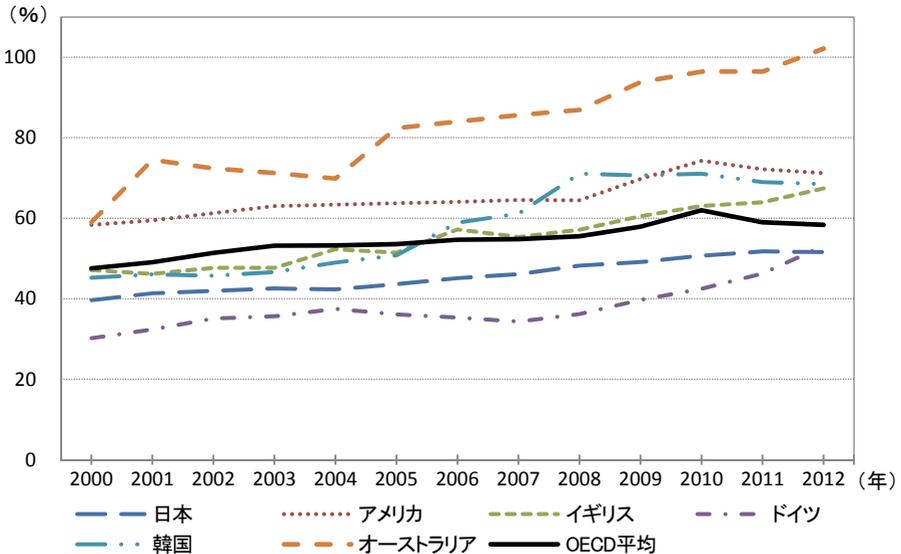


8-1 高等教育への進学率（大学型高等教育機関）



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第8-1表 高等教育機関への進学率」(p.228)参照。

高等教育機関への進学率の国際比較は、各国の教育制度が異なっているため容易ではない（「第8-2表 各国の学校系統図」参照）。

OECDは、毎年発行する『Education at a Glance』において、各国の高等教育機関への進学率を、大学型高等教育（日本では大学学部に対応）と非大学型高等教育（日本では短期大学及び高等専門学校、専修学校専門課程に対応）に分けて掲載している。

上のグラフは、各国の大学型高等教育機関への進学率を示している。OECD平均の大学型高等教育機関への進学率は、2000年の47.6%から2010年には62.0%まで上昇したが、その後は経済危機の影響により低下傾向にある。2012年は58.3%となり、2000年の47.6%から10.7ポイント、1995年の38.6%から約19.7ポイント上昇している。

2000年から2012年の間に、日本の大学型高等教育機関への進学率は12.0ポイント上昇した。同じ期間に、オーストラリアは43.2ポイント、韓国は23.3ポイント、イギリスは20.3ポイント、ドイツは23.0ポイント、アメリカは12.8ポイント、進学率が上昇している。

非大学型教育機関への進学率は比較的低く、OECD平均で2000年が15.6%、2012年が18.1%である。2012年の各国の進学率は、日本が28.4%、韓国が36.0%、ドイツが21.8%、イギリスが19.7%などとなっている。